



路地参道～交わる人と道～

令和2年度卒業研究 最終審査会
5617013 大貝 晴輝

計画目的

琴平町(香川県)は、金刀比羅宮や金毘羅歌舞伎で有名である。琴平町は金刀比羅宮の参拝客等の観光客で賑わっているが、その参道空間はかなり狭く、電柱や電線も目立つ。また、琴平町の特産品等を扱う店や歌舞伎の舞台など、琴平を代表する物をそろえているが、主要な参道空間は一本道となっており、その参道空間からは「琴平らしさ」を感じられない。歴史ある琴平は、より秩序のある静観な町並・参道空間を形成すべきであり、その参道空間は「琴平らしさ」を兼ね備えたものであると考える。

琴平町は参道空間の周囲にある住居スペースも狭い。敷地に無理矢理押し込んだかのような住宅が密集しており、町民は住宅間に無数にある、細く入り組んだ路地を上手く利用して生活している。しかし、参道空間にはそれが活かされていない。また、参道空間内外で観光客と町民の空間が分断されており、双方の交流もほとんどない状態である。

当計画は、観光客が往来する参道空間と町民のための生活空間である路地空間のあり方を見直し「琴平らしさ」を残しながら、観光客と町民の交流を促す、新たな参道空間を提案すること目的とするものである。

計画敷地

香川県仲多度郡琴平町 県道207号線沿い
金刀比羅宮表参道(旧高松街道)周辺
商店街部分の終点から石段前までの表参道周辺

敷地背景と分析

かつて、伊勢神宮のお陰参り、京参りと並ぶ三大行事の一つである金毘羅参りで有名な金刀比羅宮。その表参道は、旧高松街道の両側を多くの店舗が軒を連ねることで参道空間を形成している。この参道空間は、建物間の距離がほとんど無いため、強い方向性と連續性を有している。この性質により、参道空間によって住宅地が南北に分断され、住民は迂回を強いられている。

参道空間には、部分的に屋根や庇が軒先空間として利用されており、そこで多くの品物が販売されている。

参道空間に面した店舗の背後の住居スペースには、住宅が不規則に建っている。その敷地間には、細い路地がいくつもあり、入り組んでいる。この路地空間は、公共交通機関や商業施設、参道空間へのアクセスとして、町民の生活空間の一部となっている。

大勢の観光客で賑わう金刀比羅宮だが、表参道はその幅約5mと人数の割に狭い。さらに、店舗の物資運搬のために自動車が参道内に侵入してくるため、かなり危険であると言える。

表参道の様々な所に提灯が吊るされている。黄色に赤で丸の中に「金」と描かれた提灯で、それらがいくつも並んでいる様子は、琴平ならではの景色となっている。



路地参道～交わる人と道～

計画の基本方針

①「琴平らしさ」=路地

町民の生活空間の一部である路地は、琴平町に無くてはならないものである。この路地空間を「琴平らしさ」として捉え、計画に取り入れていく。これは、参道空間と路地空間の接続による観光客と町民間の交流についても期待できる。

②参道空間の軒下空間の継承と電柱・電線の撤去

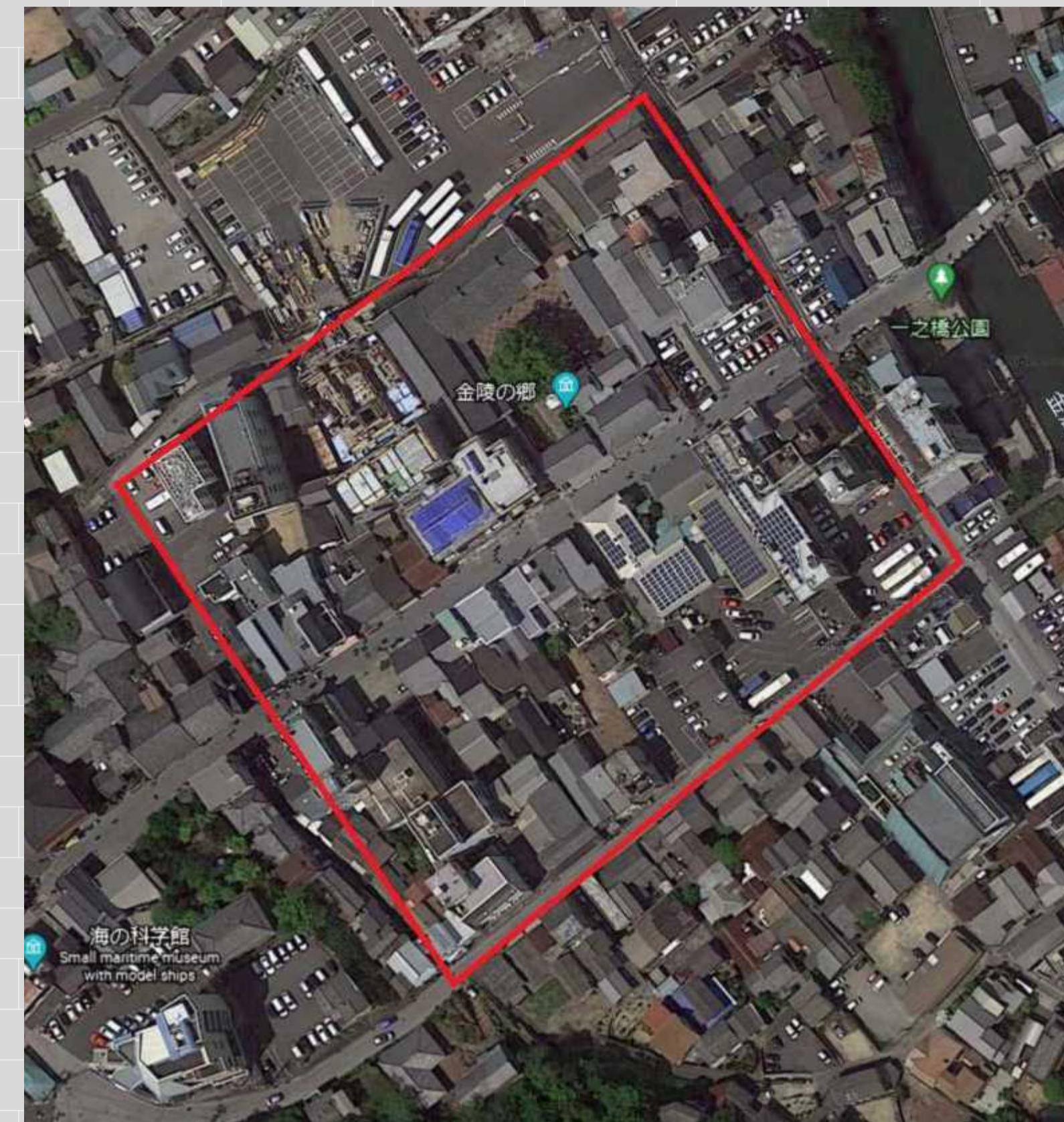
参道空間上部には部分的に軒下空間的な場所がある。その空間的特性を残し、一方で景観を維持するために、電信柱や電線は見えない位置へと移す。

③参道空間の拡張

参道空間を、表参道一本だけでなく、路地を利用して参道と法線方向への広がりを考慮して計画する。

④参道空間の連続性に対応した空間

参道空間の魅力は参詣のための方向性と連續性と考えられ、それらに対応した空間構成を行う。



基本方針を実現するためのシステム

①店舗の再配置

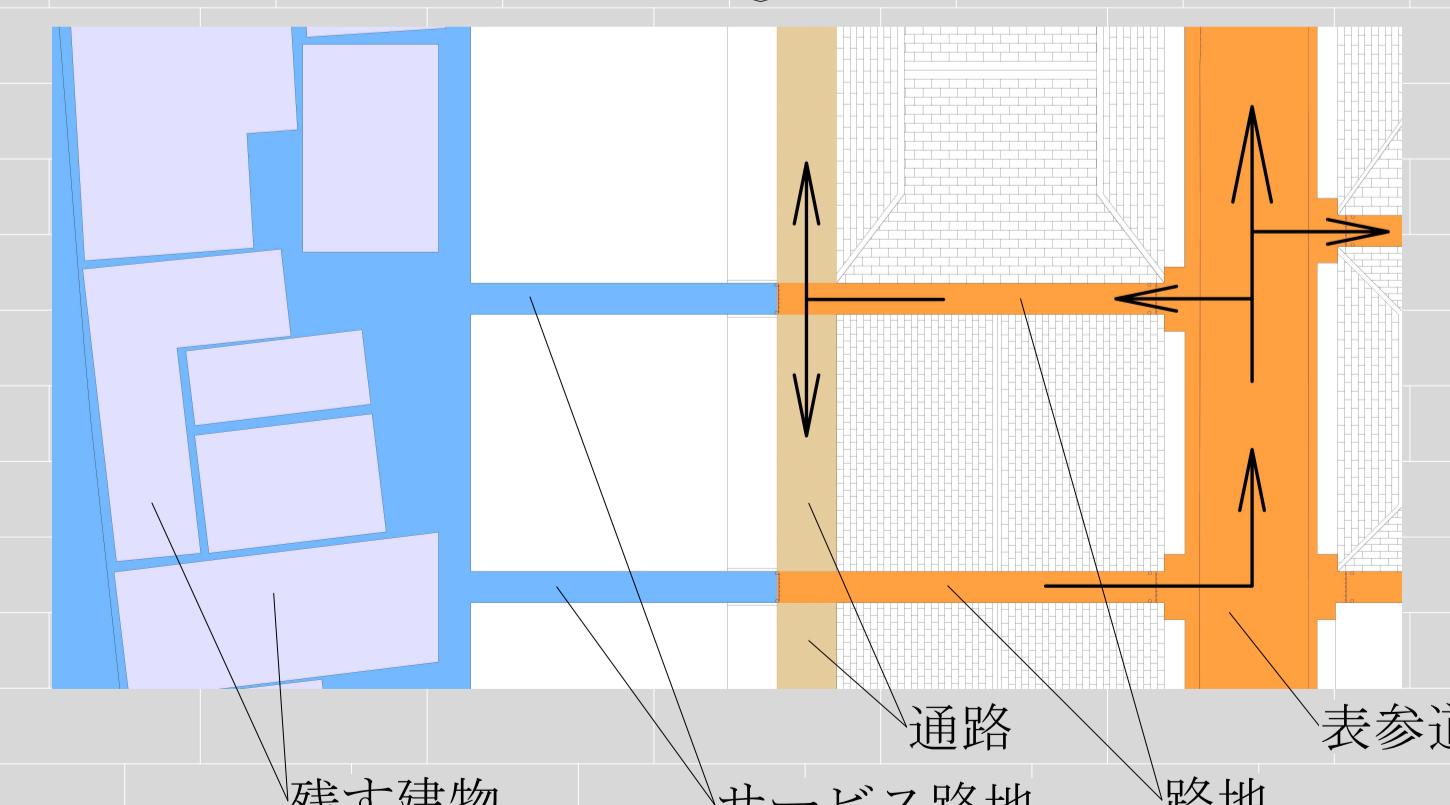
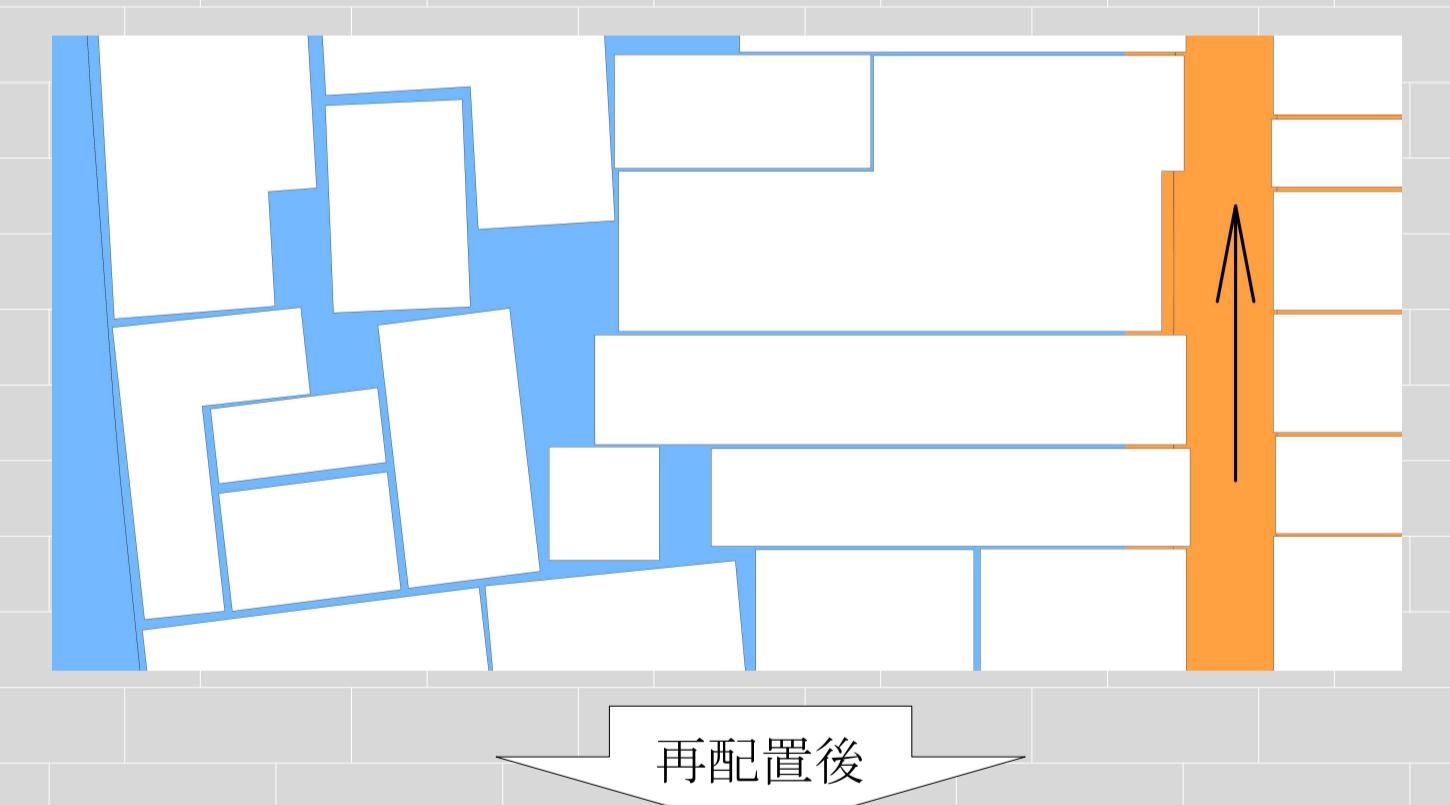
道空間に面した店舗は建物間の空間がほとんど無いため、それを解消し、路地空間を形成するために店舗の再配置を検討していく。

②参道空間から路地空間へ拡張するフレーム

参道空間の方向性と連續性に対応するために、いくつも存在する鳥居を模したフレームを配置し、参道空間から路地空間への流れを促す。また、フレーム内に電線を通することで、地上から電線・電柱を隠すことができる。

③町屋による参道空間の整理

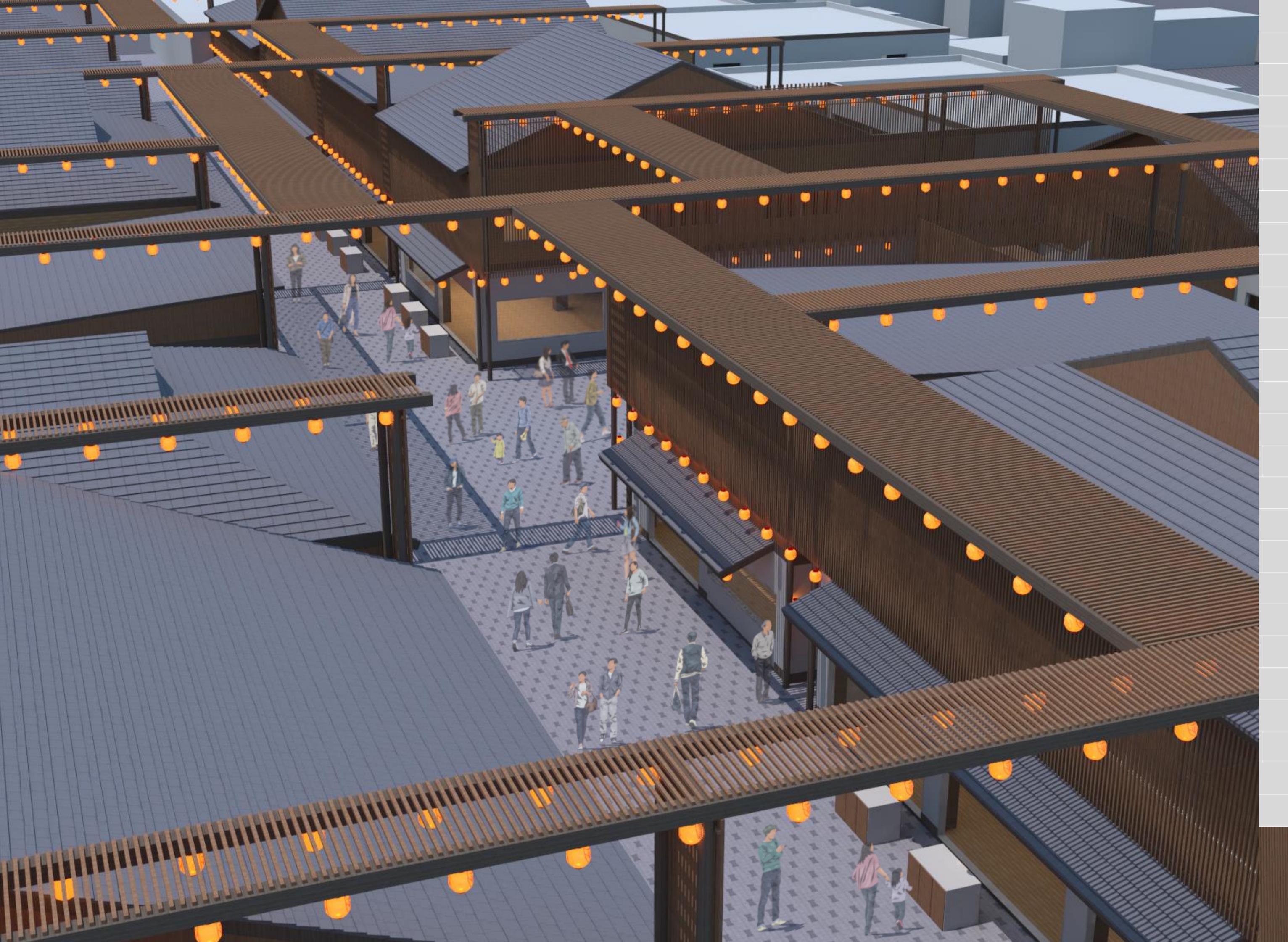
店舗の再配置と共に、建物を、表参道側の1・2階部分を商業空間、表参道とは反対側の1・2階部分を居住空間とする町屋へと変更する。商業空間は、2階部分を吹き抜けや店内の一部として利用し、建物によっては1階部分全てを商業空間としても可能とする。1階中央部分は通路を設ける。参道方向に貫通させることで、路地からの入店や隣接する町屋へのアクセスが可能になる。この町屋を貫通した通路は、他の町屋の通路と連続することで、新たに参道とも言える空間を形成する。



プライベートな生活空間
住民や従業員の専用行動範囲

パブリックな参道空間
(観光客の行動可能範囲)

路地参道



(左) フレームは路地空間の内、観光客が通行する部分に設置する。そして、このフレームを表参道の上部に設置するフレームで接続することで、参道空間から路地空間への流れを視覚的に促していく。このフレームには屋根と採光の役割を果たすルーバーを取り付ける。これにより、軒先空間を継承していく。また、ルーバーのデザインは、計画敷地周辺の商店街のアーケードのデザインを取り入れたものである。

(左下) 町屋2階の住居部分には中庭を設けている。路地に面する壁の一方はルーバーで計画し、参道のデザインを取り入れている。

(下) 計画敷地の中央部分に近い位置に県の保護樹に指定されている楠木がある。現在は建物で囲われているが、その周辺の空間を広場として計画する。

路地参道



(左)表参道は行事で夜も賑わう。吊るされた提灯に火が点り、光がルーバーに当たることで、幻想的な空間になり、昼間とは違った趣きを有している。

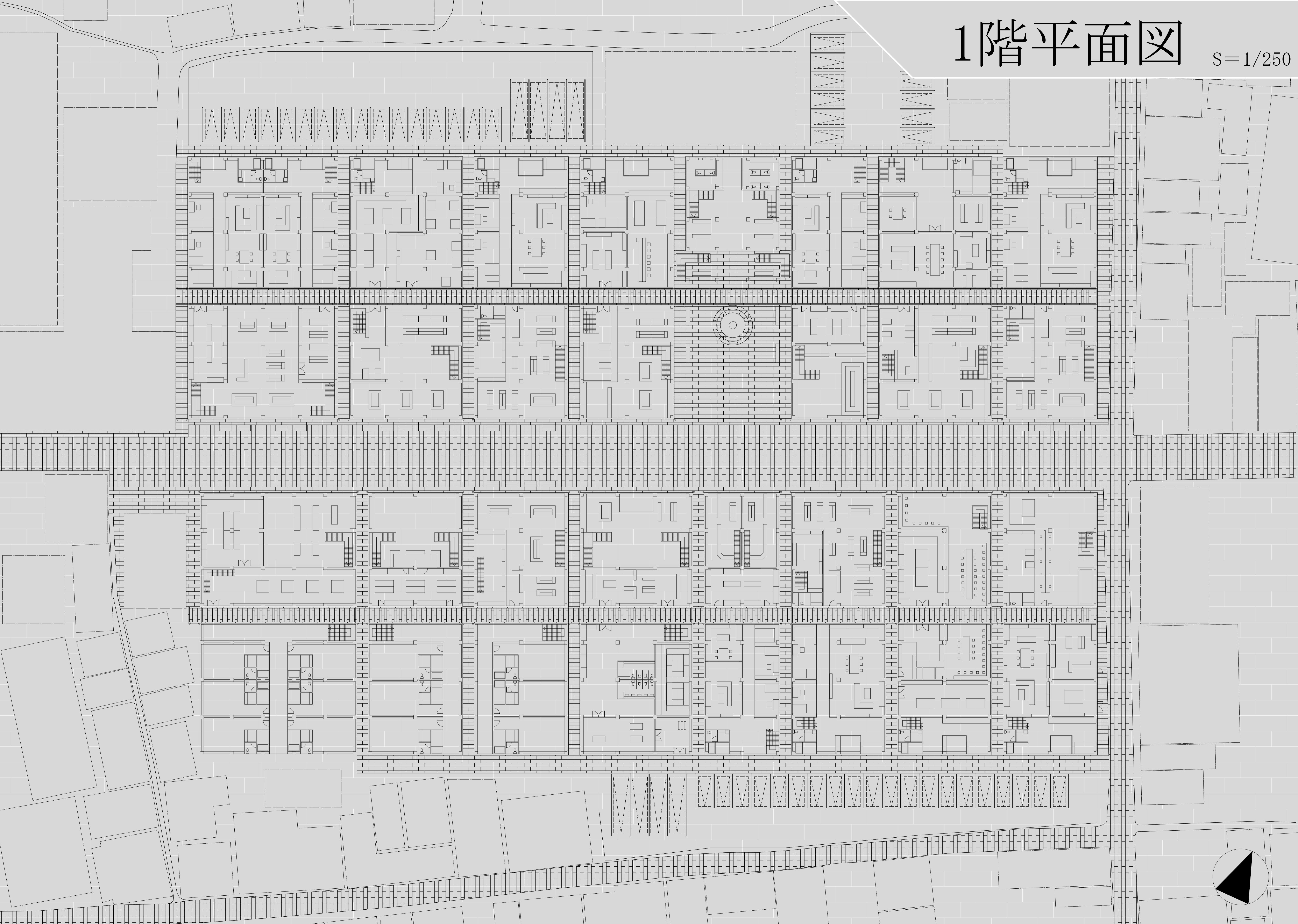


(左右下)参道空間の連続性を継承しながら、それと直交する路地を参拝客がアクセスできるようにして参道空間に組入れ、回遊できるように計画する。それによって、従来の一方向の連続性のみであった参道空間を拡張し、新たなメリハリのある魅力的な参道空間をつくる。賑わいのある参道空間と、路地の奥にある隠家のような店が共存する参道空間となる。さらに、参道空間と路地空間の上部には、ルーバーを設け、案内性を高めるとともに、全体の一体感と連続性を生み出す。



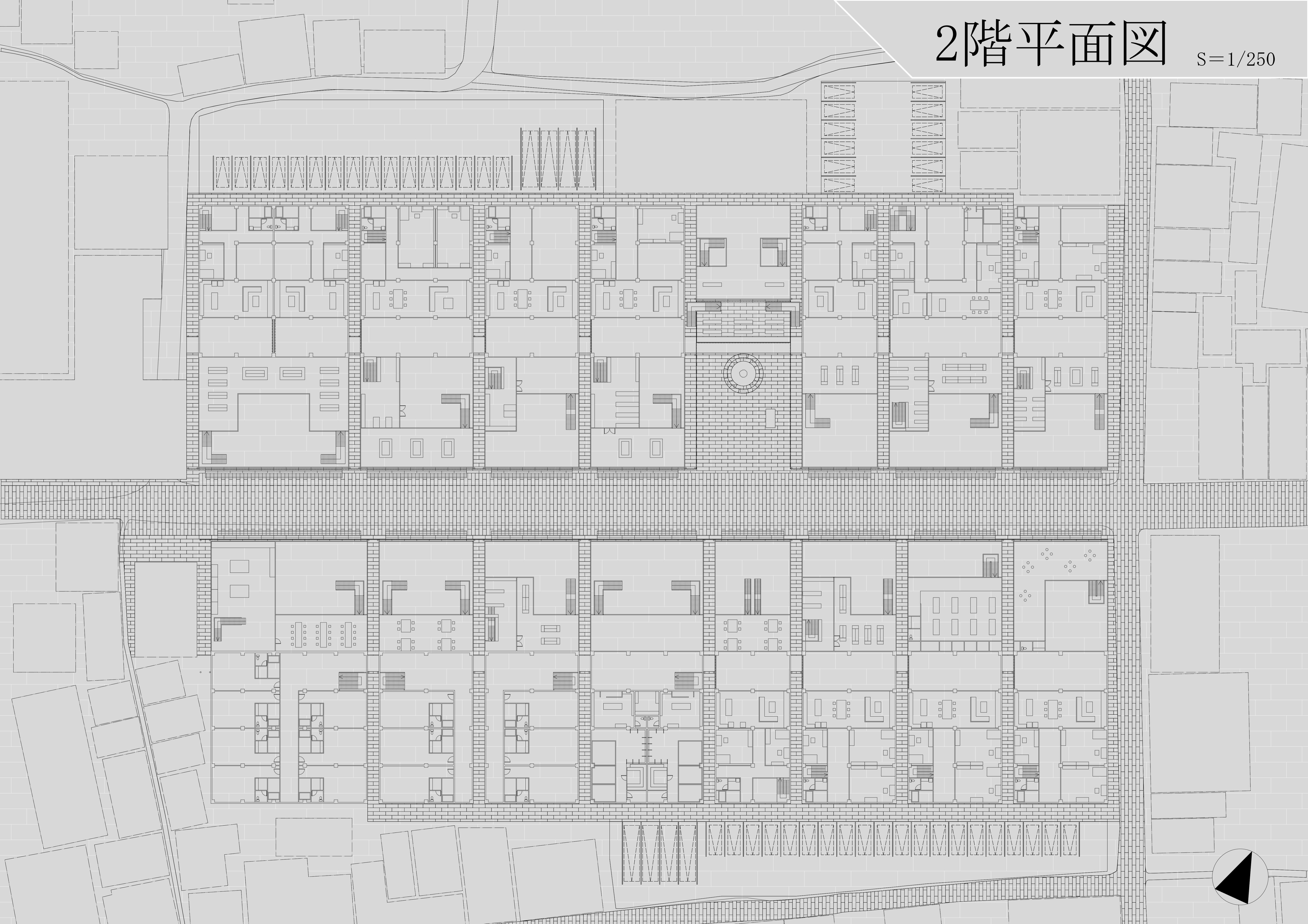
1階平面図

S=1/250



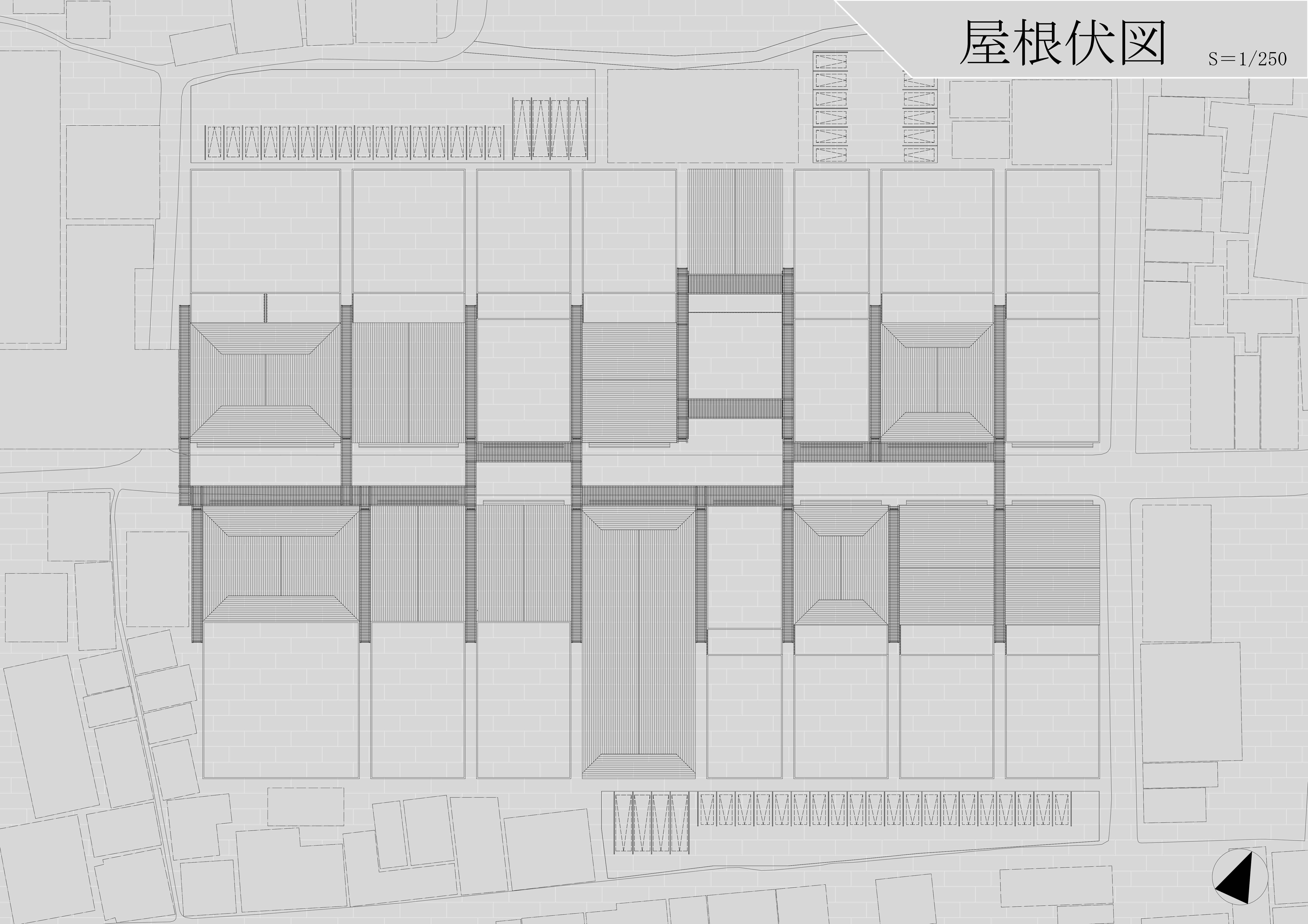
2階平面図

S=1/250



屋根伏図

S=1/250

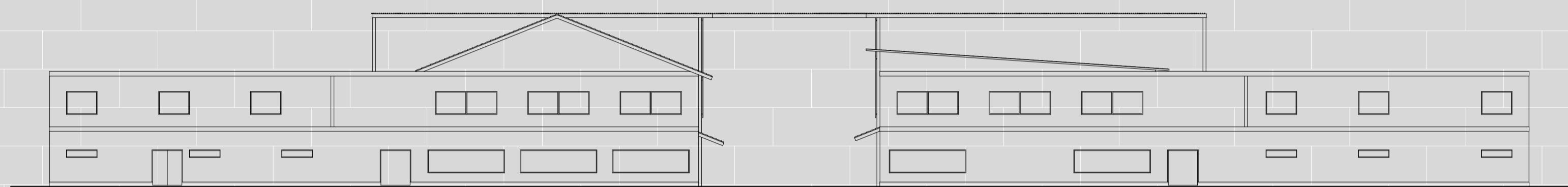


立面・断面図

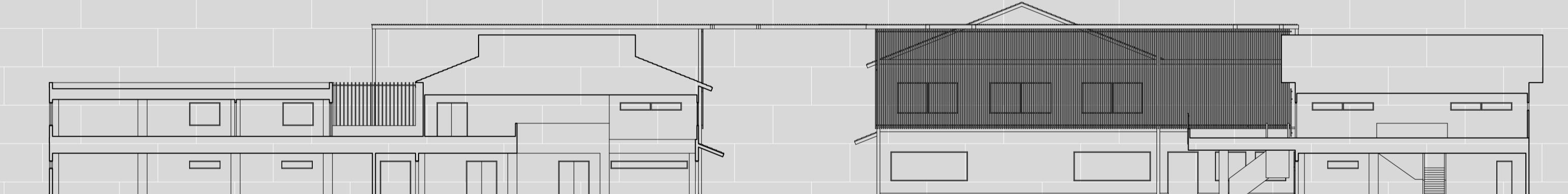
S=1/250



北面立面図 S=1/250



東面立面図 S=1/250



断面図 S=1/250



南面立面図 S=1/250